



自ら動き出す

防災・減災教育を 考える集い

防災・減災について、絵本を通して考えてみませんか。
防災をテーマにした絵本の原画展、読み語り、
シンポジウムを行います。
ご関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

1
フォーラム
「絵本と防災・
減災教育」

日時 2022年8月5日 金

◆18時～20時 (17時30分～受付予定)

会場 墨田区曳舟文化センター
レクリエーションホール
墨田区京島1丁目38番11号

参加費
無料
定員100名

プログラム

- 1 絵本専門士による防災・減災絵本の読み語り
- 2 基調報告
「自ら動き出す防災・減災教育を考える」
金井昌信さん (群馬大学教授)
- 3 シンポジウム「絵本と防災・減災教育」

シンポジウム登壇者

金井昌信さん (群馬大学教授)
加藤 篤さん (NPO法人日本トイレ研究所 代表理事)
笠間亜紀子さん (読売新聞 防災ニッポン編集長)
コーディネーター
鈴木みゆきさん (國學院大學教授)

フォーラム申込方法 文字・活字文化推進機構のWEBフォームから申込 (先着順) お申し込みはこちらから



2
原画展
防災・減災を考える絵本
「うみといきる」
(いとう良一・絵/金の星社)

日時 2022年8月1日月～7日日

会場 墨田区立ひきふね図書館
プロジェクトコーナー
墨田区京島1丁目36番5号

観覧
無料
(申込不要)

主催：公益財団法人 文字・活字文化推進機構

後援：墨田区、墨田区教育委員会、墨田区医師会

特別協力：読売新聞社

企画協力：チームデコボコJAPAN

協力：金の星社



シンポジウム登壇者



金井昌信さん

(群馬大学大学院理工学府環境創生部門 教授)

専門は、災害社会学。住民の災害情報理解特性や避難行動特性に関する調査研究を行うとともに、その知見を生かし、地域住民が主体となって、地域独自の避難計画を策定する取組を全国各地で支援している。また小中学校における防災教育に関する研究も行っており、「防災」を学ぶ防災教育ではなく、「防災」を通じて学ぶ防災教育の多様な教育効果に着目し、様々な実践的研究を行っている。



加藤 篤さん

(NPO法人日本トイレ研究所 代表理事)

1972年、愛知県生まれ。まちづくりのシンクタンクを経て、現在、特定非営利活動法人日本トイレ研究所代表理事。災害時のトイレ・衛生調査の実施、小学校のトイレ空間改善、小学校教諭等を対象にした研修会、子どもたちにトイレやうちの大切さを伝える出前授業、子どもの排便に詳しい病院リストの作成などを展開している。「災害時トイレ衛生管理講習会」を開催し、災害時にも安心して行けるトイレ環境づくりに向けた人材育成に取り組んでいる。



笠間亜紀子さん

(読売新聞 防災ニッポン編集長)

読売新聞入社後、山形支局、生活部、社会部、週刊誌「読売ウイークリー」編集部などで記者・デスクとして過ごす。2020年6月から読売新聞のくらし×防災メディア「防災ニッポン」の開設準備を始め、9月1日にスタートさせた。2021年3月11日からは企業・自治体向けの防災情報サイト「防災ニッポン+」の編集長も兼ねる。阪神大震災は発災時から取材し、東日本大震災では物資の調達を始め報道の後方支援実務全般を担った。防災士。



コーディネーター



鈴木みゆきさん

(國學院大學人間開発学部子ども支援学科 教授)

博士(医学)。和洋女子大学人文学群こども発達学類教授、独立行政法人国立青少年教育振興機構理事長を経て現職。過去には文部科学省中央教育審議会幼児教育部会委員、厚生労働省社会保障審議会保育専門委員会委員、墨田区教育委員会教育委員などを歴任した子ども教育のスペシャリスト。現在、内閣府「子ども・子育て会議」会長代理などを務める。NHK「みんなのうた」、「おかあさんといっしょ」等に詞の提供も行う。

新型コロナウイルス
予防対策について

- ① 37.5℃以上の発熱がある方、体調のすぐれない方はご参加をお控えください。
- ② マスク着用及び手指消毒の徹底、咳エチケットへご協力ください。
- ③ その他、文字・活字文化推進機構の「イベント開催に関する基本方針について」を必ずご確認の上、お申し込みください。

※プログラムの内容及び開催については変更となる場合がございます。最新情報はホームページをご確認ください。

※撮影した写真や制作物は、本事業の報告や、主催・共催が行う広報等で使用する場合がございます。